HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	ご退職に寄せて
著者	
引用	北海学園大学経営論集，15(4)：171-175
発行日	2018-03-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

感謝でいっぱい ── 有意義な 3 年間 ──

2016 年度卒経営学研究科 16 期生　兼　平　佳　恵

石井先生，長い間お疲れさまでした。また，大変お世話になりました。

石井先生が私の指導教授でなかったら，私はきっと修士課程を修了できていなかったのではないかと思っています。長期履修で学んだ 3 年間で，転職や母の死など私にとっては大きな出来事があり，そのたびに研究に集中できなくなっていた私をそっと見守って，少しずつやる気スイッチを入れてくれた石井先生。看護師でありながら石井先生に看護されていたのではないかと思っています。

研究のインタビュー対象者に手紙を書いて，断られ続けて落ち込んでいた時も「まだまだ大丈夫ですよ。また，別な人に送ってみてはどうですか」とアドバイスしてくださいました。こんなに断られているのだからもう無理！　石井先生，他人ごとだと思って…と内心思いつつも，石井先生の言う通りにあきらめずにやっていると，あっという間に次々とインタビューの機会を得ることができました。著名な方にインタビューに行く時も，見ず知らずの私のために時間をとってくれるかなと心配していると，「大丈夫ですよ。そういう方ほど，きちんと時間を作ってくれます」とおっしゃいました。本当にその通りになって，またもやびっくり。私も中間管理職として仕事をしていますが，この時間を作るということに関しては，石井先生のご助言以降，自分の中でも意識して実行しています。

石井先生からご指導を受けた 3 年間は，研究もそうですが，日々の自分のあり方や仕事に対する考え方に大きな影響を与えてくださいました。演習では時には，健康相談やお宝探偵団の話になったりと，脱線もありましたが，楽しく有意義なものでした。

これからもお体を大切にして，素敵な先生であり続けてください。たくさんの感謝を込めて…本当にありがとうございました。

石井先生へ感謝を込めて

2004 年度卒経営学研究科 4 期生　木　村　　剛

石井先生，永年にわたる研究生活大変お疲れ様でした。今までお世話になりましたことに心より感謝申し上げます。

当時の私は銀行から学校へ転職してから数年が経過していました。学校を取り巻く環境は少子化を主たる要因として年々厳しさを増し，生き残りをかけた改革が必要であることに加え，これまで聖域視されてきた高コスト体質や高い労務負担，希薄な危機意識等についても課題として抱えていました。こうした状況の中，学校業務に携わるに立場としてもっと深い知識を身につけることが必要であると考え経営学研究科に入学しました。

経営学研究科の院生は，ほとんどが社会人で一流企業の社員や看護師のほか，先生と言われる職業の人たちが多いのが特徴でした。講義では企業のケーススタディーや様々な学者の論文をテーマにしたディスカッションがなされ，「経営者の選任は内部昇進と外部人材の登用のどちらが良いのか？」，「人材の選抜と育成について」等，様々な論点を出し合い学問と実務を織り交ぜた活発な意見が交わされました。毎回，課題のボリュームが多く特に英語の文献の時には，和訳するところから始めなくてはならないため苦労しましたが充実した日々を過ごしました。

修士論文の指導の際は，石井先生はいつも私の話をよく聞いてくださり適切なコメントをいただきました。また，途中で行き詰まり研究テーマの変更を余儀なくされ半ば諦めかけたりもしましたが，ここでリタイアするのはもったいないと励ましてくださいました。無事に卒業することができたのも石井先生のおかげです。

短い期間ではありましたが研究の世界に身を置き，普通の生活をしていれば恐らく経験することは無かった数多くの文献を読む機会に恵まれ，また，利害関係のない業界の第一線で活躍する異業種の方々と交流できたことも私の貴重な財産となっています。社会人になってから長い時が経ち，過去の経験に頼る実務的な発想からものごとを考える習慣がついていましたが，大学院で身につけた専門知識や経験により理論的な考えをするように意識が働くようになりました。今後も自己研鑽に努めていきたいと思います。

末筆ながら，石井先生にはこれからも体調にご留意の上，益々ご活躍されることをお祈り申し上げます。

研究室の思い出

2016 年度卒経営学研究科 16 期生　萩　野　美　鶴

7 月最後の金曜日，豊平川の花火大会。石井先生の研究室（ 7 号館 10 階西側）は，花火を同じ目線の高さで見ることができる特等席です。19 時を過ぎると藻岩山の稜線がうすれて，麓に広がるマンションに明かりがつき始めます。漆黒の夏の夜空に色鮮やかな光がこぼれます。「わあー」「きれい」「写真が上手くとれなーい」……ラスト近くの盛り上がりの迫力には，皆なで拍手喝采！　その後はビールやおつまみで，研究生，卒業生と先生を囲んで楽しい演習です，学会での出来事，研究のこと……それぞれに目的意識やバックグランドをもつ仲間との自由闊達な場は，学生生活の楽しい思い出です。

さて，私事で恐縮なのですが，10 年前に中退して，定年を機に論文を書き上げたいと大学院に再入学しました。今後，増える高齢者雇用で「定年後の働き方」を研究テーマとして，指導教官は石井先生にお願いすることになりました。話しを聞くのが大好きなのでインタビュー調査は，どんどん進みました。演習では，お会いした人達から伺ったエピソードを，こちらから一方的に話し続けるのを，石井先生は，「いい話しが聞けましたね」と頷いて下さいました。先生から細かく質問をして頂いたことで，話しの内容が深まりました。得られた情報から参考になるデータや文献を教えて頂き，常に広い視野から理論的背景をお話し下さいました。

花火も終わり，中間報告会も終わり，初めて関西の学会へも参加しました。夏を過ぎても，天気の良い日が続きます。先生の研究室は，西日が眩しく暑いぐらいですが，爽快でリゾート気分です。それなのに，私は資料や先行研究を読み込むのを後回しにしていました。秋になり，雲行きがあやしくなってきます。以前からの先生の言葉が頭をよぎります。資料の整理は早めにね，読んだ文献は簡単でもいいから必ず記録しておいた方がいいですよ，この文献と個々の箇所はどういう関係ですか……絶体絶命の危機が到来しました（中略）論文を提出し，疲労困憊した私に声をかけて下さいました。「玉葱も，最初に外側の皮を剥かなければなりません」先生の穏やかな表情にホッとしました。一番外側にある薄い薄い茶色の一枚の皮を向いた論文が出来上がりました。長く仕事をしてきた経験と理論的背景をつなげる研究の楽しさを教えて頂きました。石井先生，ご指導いただき有難うございました。どうぞ，お身体をお大事にされて，ご活躍されますよう祈願しております。

石井耕教授の退職に寄せて

2004 年卒経営学研究科 3 期生　細　田　健　一

石井先生（以下，先生と呼ばせていただきます。）が退任される，との一報を受けた時には，正直，驚きました。小生の脳裏には，厳しい中に暖かくもあるメガネの奥の眼差しと，話しを静かに聞いている時の佇まい，的確な指摘を穏やかに発する口元が浮かびました。

初めてお会いしたのは，入試面接の時だったと思います。その後，入学してからは，概ね，平日の夜は仕事を早々に切り上げ，先生の授業などを受け，土曜日は日がな一日大学院の研究生室に居て，先輩や同期たちと過ごし，先生の丁寧なご指導を授かる日々でした。時には，みんなで食事をしたり，花火大会を観たりもしました。

当時の特殊講義の先生諸氏は，個性豊かで博識な方ばかり。経営学原論の O 月先生，マーケティング論の黒 D 先生。

そして，石井先生は組織行動論と企業戦略論を担当されており，多彩な論文をこれでもかと，あの眼差しでお配りになられるのです（冷汗！）。特に先生は，組織トップの行動がいかに企業経営にとって重要かを繰り返しご指摘されていたように記憶しています。

「戦略サファリ」，「コアコンピタンス」，「暗黙知」，「ドラッカー」，「コッター」，「マズロー」etc，（思いつくままに！）。これまでの人生の中で，これほど本を読み，授業を受け，議論し，そして，新しい知識を獲得することが楽しかった時間はありません。知の世界は雄大でした。その世界に没頭しました。

小生は今年 57 歳キャリア社員になり，企業の第一線を退きます。しかし，明るい。残りの人生経営をいかに自らが主役となって生き抜くか，経営学に直結する課題だと思います。

最後になりますが，先生のご快復を心からお祈り申し上げております。改めまして，石井先生，ありがとうございました。

石井耕先生に感謝を込めて

2005年卒経営学研究科4期生　山　崎　記　敬

私は平成15年4月から平成17年3月まで2年間に渡り，経営学研究科修士課程にて石井耕先生にご指導をいただきましたので，石井先生のご退職にあたり感謝の気持ちを述べさせていただきます。

私は経営学研究科に入学した当時は北海道庁にて公務員として勤務しておりましたが，自治体の現場には経営学の理論や考え方は全くと言って良いほど普及や浸透はしていませんでした。

しかしながら，日々の仕事に漠然とした問題意識を持つ中で，自治体の運営や政策形成等にも経営学は有効なのではないかと考え，石井先生に日頃抱えている問題意識を相談させて頂きながら研究計画をまとめ，平成15年4月に経営学研究科に入学させて頂きました。

経営学研究科に入学後は，ディスカッション中心の講義形式ということもあり，石井先生を始めとして，多くの先生方から数多くの文献を読み，理解を深め，自らの考えをまとめた上で講義の場で仲間とディスカッションを行うというプロセスを課題として与えられ，正直なところ大変でしたが，この経験が今でも実務の中で生きていると思います。

特に石井先生からは，日本企業の経営行動や人事組織のあり方のほか，海外の経営学研究に関する文献を戦略や組織などジャンルを問わずに幅広く課題を与えられましたので，経営的な事象を多角的な視点から分析し，理論を踏まえながらも自らの考えをまとめるというプロセスを鍛えて頂いたと思います。

修士論文指導においても同様で，日頃の問題意識や研究の進め方を相談した際には，課題解決につながるような親しい先行研究や文献を数多く紹介して頂き，講義同様に文献を読み解きながら，自らの考えをまとめるプロセスを行いました。

修士論文については，稚拙な内容ではありましたが，私自身が考えていた問題意識に近い内容を理論的な枠組み構築から仮設設定，データ実証まで修士論文としてまとめ，石井先生のご指導もあり，平成17年3月に経営学研究科を修了することができました。

経営学研究科修了後は，公務員から民間企業に転職したこともあり，自ら経営管理業務に携わったり，中小企業診断士として経営コンサルティング業務に関わるなど経営学研究科で学んだ企業経営に直結する業務に恵まれましたが，石井先生から当時指導を受けた経営事象の捉え方や分析方法，考え方などは大学院修了後10年を経た今でも実務に役立っています。

本稿執筆にあたり約15年ぶりに石井先生から当時課題として与えられた文献の一部を読み返してみましたが，経営学研究科在学当時に研究室で夜遅くまで文献を読んでいたことが，つい最近のように思い出して懐かしくもあると同時に，経営学研究科で学んだ一連のプロセスが仕事の進め方の基本として今でも日々の実務に生かされていることを再認識しました。

石井先生には，私と同様に経営学研究科や経営学部から送り出した多数の教え子がおられると思いますが，教え子の一人として感謝の気持ちをお伝えするとともに，まずはこれまでの激務を癒やしてゆっくり静養いただきつつも，ご退職後もこれまで同様に種々ご指導を頂ければと願っております。